

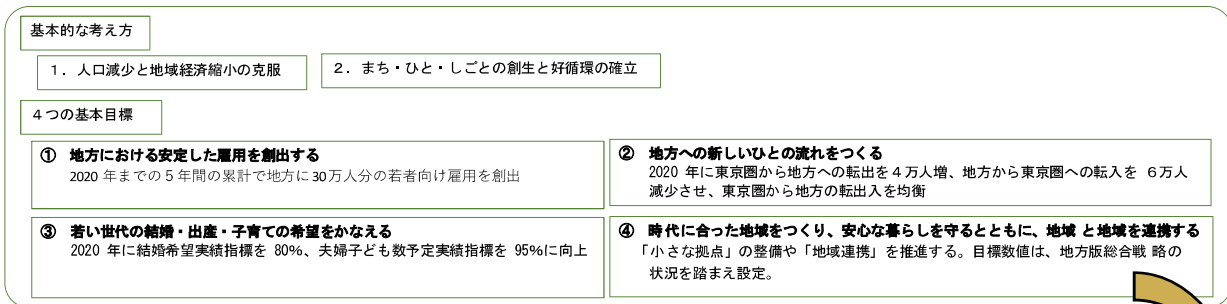
第2期まち・ひと・しごと

創生総合戦略

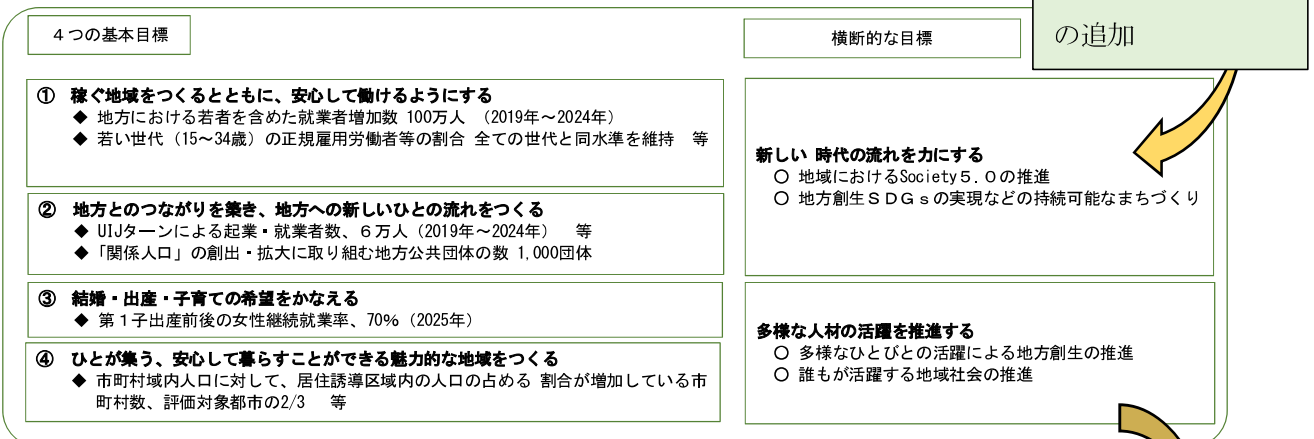
第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

国は「まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成26年）」の従来の枠組みを維持しつつ、見直しを行った第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和元年12月）」を策定しました。しかし、令和2年1月から日本全国に拡大している新型コロナウイルス感染症の影響を勘案し、新型コロナウイルスによる感染症の急激な拡大の影響を踏まえた当面の地方創生の進め方を提示した、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改訂（令和2年12月）を行いました。

■平成26年 まち・ひと・しごと創生総合戦略

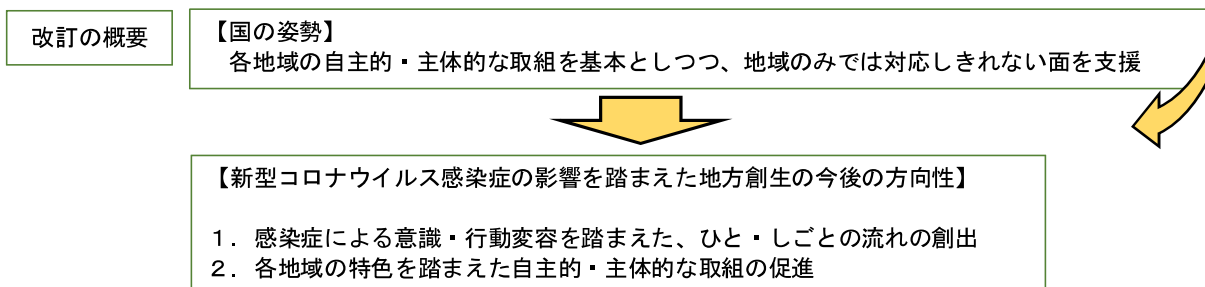


■令和元年 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略



■令和2年 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020改訂版）

～感染症の影響を踏まえた今後の地方創生～



本町においては、平成 27 年に和束町の人口の将来展望を示す「和束町人口ビジョン」における将来人口の実現に向けて「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「まちづくり、ひとづくり、しごとづくり」に取り組んできました。

しかしながら、本町の人口は若い世代を中心に減少が進み、高齢者の割合も年々増加していることから、少子高齢化の加速に歯止めがかからない状況となっています。また、新型コロナウイルス感染症拡大により観光業は大きな打撃を受け、交流人口の大幅な減少が続いています。こうした状況を町が町民とともに、しっかりと認識し、強い危機感を持って、人口減少対策に取り組まなければなりません。この難局を町全体で乗り越えていくためには、これまでの概念に捉われず、柔軟な発想から生み出される斬新なアイデアで、大胆な施策に勇気を持ってチャレンジすることが必要です。

本町では、今般の国や府の総合戦略を勘案しつつ「和の郷 知の郷 茶源郷 和束」を将来像とする和束町第5次総合計画の基本構想に掲げる将来人口及び交流人口を見直すとともに、基本計画で示された内容の重点事業という位置づけで、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

【参考】 第5次総合計画における第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略との対照表

		第5次総合計画基本計画体系																				
		I 子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷			II 生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷			III 自然と共生し、安心・安全な郷			IV お茶観光を軸とした交流の郷			V 快適で美しい環境の郷			VI 住民と行政のパートナーシップによる郷					
基本目標	基本的方向	基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	基本目標5	基本目標6	基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	基本目標5	基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4		
		人材育成・地域振興・社会の形成	地域振興の促進・雇用・生活の向上	子育て支援	高齢者の生活支援	子育て支援	高齢者の生活支援	子育て支援	高齢者の生活支援	子育て支援	高齢者の生活支援	子育て支援	高齢者の生活支援	子育て支援	高齢者の生活支援	子育て支援	高齢者の生活支援	子育て支援	高齢者の生活支援	子育て支援	高齢者の生活支援	
1	1 町内外の若者が茶に携わることできる環境づくり												★									
	2 茶産物の充実・強化と新たな商品開発												★									
	3 新たな雇用の創出												★									
	4 大打峠トンネル開通に伴う茶産物利便まちづくりプロジェクト												★									
2	1 多彩な異文化体験の場づくりで交流人口と和味ファンを殖やす																					★
	2 移住・定住の促進																					★
3	1 安心、すくすく、出産・子育て支援	★																				
	2 “和味町だからできる” “和味町ならではの” の教育の一層の推進																					
4	1 交通インフラの整備を推進し、日常生活範囲の拡大を図る																					★
	2 身近な拠点づくりと地域における生活支援	★																				
	3 安心・快適な暮らしを守る																					★
	4 情報発信と活用を強化する																					

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略体系

基本目標 1 茶を軸とした働く場を創る

目標

茶源郷和束の誇る茶業・茶畑景観をはじめとする農村文化を活かして、健康、教育、観光等と連動した新たなビジネスモデルを創出し、若者にとってやりがいのある雇用の場づくりを進めます

<重要目標達成指標>

◇荒茶生産額

年間 24.7 億円（令和元年：2019年） → 年間 30 億円（令和7年：2025年）

◇雇用創出数

累計 33 人（令和元年：2019年） → 累計 95 人（令和7年：2025年）

基本的方向 1 町内外の若者が茶に携わることのできる環境づくり

○援農の取組、農業体験の受け入れ、農村民泊など、これまでの取組の継続を推進し、町内外の若者が茶に携わることのできる環境づくりをするとともに、茶産業+ONE（茶業を補填する新しい農業分野）の枠組みを確立し、年間を通じて働ける基盤整備により、UIJ ターンの受け皿づくりと雇用の創出に取組みます。

重要業績評価指標

指標名	単位	基準値 (2019年)	目標値 (2025年)
援農数	人日	908	1,250
新規就農者数	人	4	5

番号	具体的な事業	担当課
1	農業次世代人材投資資金給付事業 新規就農者への給付金年間 150 万円を給付する。	農村振興課
2	援農者支援と移住・定住促進事業 農繁期における援農支援体制の構築を図るとともに、茶農家が援農者向けに確保する空き家の利活用を促進するため、関係団体と連携した支援体制を構築する。	

番号	具体的な事業	担当課
3	地域雇用創出・人材確保支援事業 地域における雇用創出の拡大に向けて、農家や事業者が年間を通じて安定して人材が確保できるように、国、府、相模東部地域と連携し、新たな体制の構築に向けて取り組む。	農村振興課

基本的方向2 茶産業の充実・強化と新たな商品開発

○産官学の連携により、茶などの地場製品を活かした商品開発、現在の流通小売に耐えうる生産・加工・販売の仕組みを再構築するとともに、新たな設備投資への支援にも継続的に取り組みます。さらに、和東茶のブランディングを目指す企業の設立を支援し、また多様なニーズに応じた商品開発にも引き続き取り組みます。

重要業績評価指標

指標名	単位	基準値 (2019年)	目標値 (2025年)
海外販路開拓成約件数	件	0	3
地場製品を活かした商品開発数（累計）	件	47	77

番号	具体的な事業	担当課
1	和東茶ブランド化・新商品開発事業 「和東茶」をブランディングし、知名度向上を目的に首都圏等の商談会や海外への販路拡大に向けた活動などを支援するとともに、その活動を担う人材の育成にも取り組みます。	地域力推進課 農村振興課
2	茶源郷和東にぎわい創出プロジェクト事業 茶産業に次ぐ新たな農作物を利用した新商品開発を行う。	農村振興課
3	茶業振興対策事業 後継者の育成や業務の省力化等に対する支援を行う。	
4	茶業担い手対策事業 後継者の不在や人手不足等による耕作放棄地の拡大等により、お茶産業が衰退するのを防ぐため、関係団体と連携した新規就農者の農地確保や家族経営者の人手確保を支援する制度の構築を行う。	

基本的方向3 新たな雇用の創出

○和東茶のブランディングを目指す企業の設立により新たな雇用を創出するとともに、農業の6次産業化の担い手として地域商工業者や UIJ ターン希望者が参画できるよう人材育成と伴走支援を行い、商工業の活性化、新たな雇用創出に繋げる。

業績評価指標

指標名	単位	基準値 (2019年)	目標値 (2025年)
和東茶のブランディング企業の新規設立数	社	—	2

番号	具体的な事業	担当課
1	和東茶のブランディング企業の設立支援 和東茶の生産から流通までを一体的に行う企業の設立を支援する。	地域力推進課
2	茶源郷和東6次産業化による雇用創出支援事業 農業の6次産業化を目指し、地域事業者やUIJ ターン希望者の就農等に関する相談やセミナーの開催、マッチング機会を創出するなど、新たな雇用創出を支援する。	農村振興課

基本的方向4 (仮称) 犬打峠トンネル開通に伴う茶源郷和東まちづくりプロジェクト

- (仮称) 犬打峠トンネル開通による流通・観光・商業サービス等の需要発生を、町内全域で受け入れ可能とする環境を整備するため、土地利用のあり方や新たなビジネスチャンス进行调查研究し、地元企業の活動促進や町の魅力を活かした企業誘致を進めるなどにより、新たな事業創出に向けて戦略的に取り組むため、プロジェクトチームを創設します。
- また、地域の住民、事業者、関係団体、さらに近隣市町村とも連携する事業推進体制を構築し、トンネル開通までの環境整備を目指し、スピード感を持って取り組みます。

業績評価指標

指標名	単位	基準値 (2019年)	目標値 (2025年)
新規企業誘致件数	社	0	2

番号	具体的な事業	担当課
1	和の郷 知の郷 茶源郷 和東まちづくり推進事業 (仮称) 犬打峠トンネルの開通に合わせて、ポストコロナ社会におけるまちづくりのあり方を踏まえつつ、近郊都市からの人口流入を促進するため、地域の住民、事業者、関係団体等と協働し、近隣市町村とも連携した町の魅力を活かす事業を創出する。	全課

基本目標2 交流人口を増やし定住につなげる

目標

住民・行政が一体となった茶源郷和東の魅力的な資源の掘り起こしとネットワーク化、その効果的な活用・PRの推進を目指します。同時に空き家の活用等住宅供給を進め、交流人口の増大、和東ファンの獲得とともに、定住の促進を図ります。

<重要目標達成指標>

◇ずっと住み続けたい住民の割合

53.4%（令和2年：2020年） → 70%（令和7年：2025年）

◇交流人口

170,429人（令和元年：2019年） → 300,000人（令和7年：2025年）

◇社会増減

－ 36人（令和元年：2019年） → － 18人（令和7年：2025年）

基本的方向1 多彩な農村文化体験の場づくりで交流人口と和東ファンを増やす

- 茶摘み体験や農村民泊など、様々な農村里山文化体験の場を創出し、さらに和東町への訪問者数を増やすため、町内外の人が和東町のまちづくりについて話合う拠点環境づくりとその運営を支援します。
- 和東町及び京都府と星野リゾートの3者で締結したパートナーシップ協定に基づく取組推進や、新たに取組む「川まちづくり」をはじめ、和東町の魅力を満喫できる場づくりや観光資源化を促進し、茶源郷まつり、自転車振興等の交流事業を発展的に継続し、「和東ファン」の獲得に向けて引き続き取組みます。
- 京都府で推進する「お茶の京都」エリア構想と連動した観光振興にも取組み、観光人口の増加を図ります。

重要業績評価指標

指標名	単位	基準値 (2019年)	目標値 (2025年)
ふるさと納税寄付件数（基準値 2020年度）	件	54	100
ツアー入込客数	人	10,144	12,000
縁側カフェ集客数	人	1,725	1,800
湯船マウンテンバイク利用者数	人	1,365	1,500
町内宿泊者数（延べ）	人	6,556	8,000

指標名	単位	基準値 (2019年)	目標値 (2025年)
外国人宿泊者数	人	779	800
民泊受け入れ者数	人	1,940	2,300
教育旅行者数（5年累計）	人	1,912	2,300

番号	具体的な事業	担当課
1	和東町交流定住サポート事業 住民と行政が一体となり交流定住を推進するため、地域資源の掘り起こしと多彩な体験の場づくりに取組む拠点として未来づくりセンターをテラス和豆香に置き、その運営が円滑に行われるよう支援する。	地域力推進課
2	ふるさと応援寄付金積立事業 和東茶ブランドの商品開発を推進するとともに、様々な媒体を駆使したブランド力のPRを強化し、和東産の商品の知名度を向上させて、ふるさと納税による寄付額を増額させる。	総務課
3	観光案内所を核とした情報発信の強化 多言語対応や観光案内所を発着点とするグリーンスローモビリティの観光案内を実施する。	地域力推進課
4	縁側プロジェクト事業 農家等の縁側提供や空き家の活用により、茶畑景観を和東町の新たな観光資源としてPRする。	
5	マウンテンバイクランド活用促進事業 あらゆる世代が湯船森林公園を活用してマウンテンバイクを楽しめるように、環境や受け入れ体制を整備する。	
6	茶源郷和東交流事業 「茶源郷まつり」やマウンテンバイク等のイベントを実施し、交流人口の拡大と地域活性化を図る。	総務課
7	地域ブランド育成事業 都市部での和東茶フェアの開催等により、茶業の振興と商工業の活性化を図る。	地域力推進課
8	緑泉コース等茶畑散策道の整備とウォーキングイベントの開催 景観を活かした交流人口の拡大のため、茶畑散策道の管理等を行う。	
9	お茶の京都の取組と連携した観光振興 京都府で推進する「お茶の京都」構想と連動した観光振興に取り組む。	
10	自転車振興事業の推進 スポーツ観光によるまちづくりを進める。	
11	近隣市町村等地域連携によるスポーツイベントの開催 近隣の町村と連携した広域のアウトドアスポーツイベントを開催する。	
12	都市住民の週末居住の促進 都市住民の和東町での週末居住促進のため、体験パンフレット等によりPRする。	
13	農観連携コミュニティ創生事業 茶文化体験、農村体験、農泊など様々なお茶をテーマとした取組を行う。	
14	観光ボランティアの育成 観光客に最大限の魅力発信をするための観光ボランティアの育成を推進する。	

番号	具体的な事業	担当課
15	茶源郷和東 PR 大使による広報活動の強化 PR大使による和東町の広報活動の強化を図る。	地域力推進課
16	京都やましる地域と東京しぶやとの連携事業 やましる地域（12市町村）が連携した東京への茶文化発信を行う。	総務課 地域力推進課
17	川まちづくりプロジェクト 木津川の木屋地区「木屋浜」において、親水護岸や高水敷広場を整備し、水辺のアクティビティを推進する他、地元特産品等の販売、イベント等による観光振興の促進を図る。	建設事業課
18	茶源郷・オープンエアミュージアム 京都府等とのパートナーシップ協定や民間企業等と連携を進めながら、お茶文化等をメインにして和東町全体を博物館に見立てた観光のまちづくりを進める。	総務課 地域力推進課

基本的方向 2 移住・定住の促進

○規制緩和を含めた農業委員会等関係機関との連携により、空き家の活用等住宅供給の促進を図り、美しい茶畑景観と自然の中で暮らしたい方への和東町への移住・定住を促進します。さらにテレワークの需要拡大を受けて在宅で仕事ができるテレワークの環境づくりを推進します。

重要業績評価指標

指標名	単位	基準値 (2019年)	目標値 (2025年)
空き家への転入世帯数(延べ世帯数)	世帯	2	14
移住相談件数(延べ件数)	件	31	211
テレワークオフィス利用者数で町内に居住する人数	人	0	10

番号	具体的な事業	担当課
1	移住・定住促進事業 移住希望者に対する相談や空き家の掘り起こし、改修費用の補助等を行う。	地域力推進課
2	スマートワーク・イン・レジデンス事業 企業のお試しサテライトオフィスやコワーキングスペースの利用を促進する。	
3	子育て・三世代同居等応援住宅総合支援事業 移住・定住を促進するため、若い世帯の住宅購入・賃借に係る費用や、多子・多世代世帯が住宅をリフォームするため費用を支援する。	
4	空き家活用促進事業 京都府宅地建物取引業協会と提携した空き家活用の促進や和東町活性化センターと連携した空き家の掘り起こしに取組むとともに、空き家の取引に専門人材が介入する空き家対策プラットホームの構築等に向けて取組を進めます。	

基本目標3 若い世代が安心して結婚・出産・

子育ての希望をかなえる

目標

極上のお茶、豊かな自然、お互いに顔の見えるご近所付き合いといった和東町ならではの環境を活かし、子どもがのびのびと育ち、また健康に家族を育む場としての茶源郷和東のイメージの構築を図り、若い世代の出産・子育てを支援します。

<重要目標達成指標>

◇出生数

13人（令和元年：2019年） → 15人（令和7年：2025年）

◇合計特殊出生率

0.94（平成30年：2018年） → 1.8（令和7年：2025年）

基本的方向1 安心、すくすく、出産・子育て支援

○和東町の強みを活かした児童生徒の医療費の無料化、自然環境での子育て等、子育て支援を推進し、安心して子どもを産み、育むことができるまちづくりに取組みます。さらに子どもと保護者、子どもと高齢者など様々な世代の交流・集いの場を創出し、ファミリー層にとって魅力的な、活気あるまちを目指します。

重要業績評価指標

指標名	単位	基準値 (2019年)	目標値 (2025年)
育児サポート人数	人	6	6
子どものあそび場・居場所	箇所	4	5
保育時間の延長		～19:00	～19:00
子育て支援者数（対象者0～2歳）	人	85	85
保育園児の高齢者サロン訪問数	回	4	6

番号	具体的な事業	担当課
1	育児サポートの充実・拡大(未就園児家庭訪問) まだ保育園に入所していない家庭に保育士が訪問し、育児相談等のサポートを行う。	福祉課 保育園
2	子どものあそび場と居場所づくりの推進 子どもが、家族や子ども同士で楽しく遊べる場所（ふるさとふれあい広場、児童公園、和東運動公園）や居場所（いきいきこども館）づくりを推進する。	総務課 人権啓発課 農村振興課
3	延長保育事業の充実(働きやすい環境づくり) 保育時間の延長により、子育てをしながらでも働きやすい環境を整備する。	福祉課 保育園
4	子育てファミリーサポート支援 保健師、家庭推進保育士が子育て世帯への訪問活動を通じて相談、助言を行う。	
5	子どもと保護者の集いの場づくり いきいきこども館、教育集会所、子育て支援センター等を活用し、親同士の繋がりを築き、安心して子育てができるよう、子どもと保護者が集う場をつくる。	人権啓発課 福祉課 相楽東部広域 連合教育委員会 生涯学習課
6	ふれあいサロン等、子どもと高齢者がふれあう世代間交流事業 多世代交流の場をつくることで、子どもの情操教育とともに、活気があり安心できる地域づくりに取り組む。	
7	多子世帯等の子育て支援事業 18歳未満の児童が3人以上の世帯を対象に第3子以降の保育料を減免する。	福祉課
8	子育て応援給付金事業 和東町に定住し豊かな自然の中で、安心して子どもを産み、のびのびと育むことができるように、出産後も定住が確認できる子育て世帯を対象に、生活応援給付金を給付する。	

基本的方向2 “和東町だからできる” “和東町ならではの” の教育の一層の推進

○地域の自然や人材、組織、小規模校の特性等を活かした魅力ある教育活動の展開、ふるさと学習、小中学校英語指導の充実など、幼小中連携の一層の推進に取り組めます。(保育園でも小学校からの英語学習に子どもたちが速やかに適応できるように、英会話講師を雇用して日常から英語に親しむ環境づくりに取り組めます。) また、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な取組を進めます。

重要業績評価指標

指標名	単位	基準値 (2019年)	目標値 (2025年)
漢字検定（3級以上の合格率）	%	15	30
英語検定（3級以上の合格率）	%	19	30
お茶の時間の授業回数	回/月	2	2
ふるさと歴史講座の開催回数	回	4	4

番号	具体的な事業	担当課
1	漢字検定、英語検定への支援 全学年が合格に向けて勉強に取り組む、明確な目標を持つことで、成功体験を得るモチベーションを上げ、学力向上へ繋げる取組を実施する。	相楽東部広域 連合教育委員会 学校教育課
2	心を潤すお茶の時間事業 「お茶」を急須で淹れて味わう活動を通して、和東町の茶業・茶文化を学び、ふるさとを誇りに思う児童生徒を育成する。	
3	ふるさと歴史講座の充実 和東町の歴史文化を次代に継承していけるよう、学習する機会の充実を図る。	相楽東部広域 連合教育委員会 生涯学習課
4	異文化交流事業 和東で子育てをする魅力として、国際感覚を身につけることができるよう、和東保育園において英会話講師を雇用する。	福祉課 保育園
5	社会の担い手として生きる力をはぐくむキャリア教育 高校や大学との連携により近い将来像を描き、学習意欲を高めるとともに、地域の企業や団体、家庭との学社連携の充実を図り、望ましい職業観や勤労観を身につけ、自らの進路を主体的に切り拓く能力や態度を小・中一貫して育成し、社会に参画するための基盤となる力を醸成する。	相楽東部広域 連合教育委員会 学校教育課

基本目標4 安心な暮らしを守り、 交通インフラの強化により日常生活範囲の拡大を図る

目標

府道宇治木屋線の整備促進や公共交通の整備などに取組み、住民の日常生活範囲の拡大を図ります。また、多世代交流・多機能型の身近な拠点づくりや、地域防災環境の整備に取組み、住民の安心な暮らしを守ります。

<重要目標達成指標>

◇「道路や交通面で通勤・通学・買い物などが不便だから」と思う方の割合
(住み続けたくないと感じた方のうち)

74.5% (令和2年：2020年) → 50.0% (令和7年：2025年)

◇「医療や福祉、公共サービスなどが十分でない」と思う方の割合
(住み続けたくないと感じた方のうち)

35.7% (令和2年：2020年) → 20.0% (令和7年：2025年)

基本的方向1 交通インフラの整備を推進し、日常生活範囲の拡大を図る

○ (仮称) 犬打峠トンネル開通を見据えた地域公共交通の充実や交通インフラの整備を推進し、町外との行き来に掛かる時間を軽減し、通学・通勤、買い物等における日常生活範囲の拡大を目指します。

重要業績評価指標

指標名	単位	基準値 (2019年)	目標値 (2025年)
橋梁の整備数【和束町実績】	橋	—	3
町が運行もしくは運行支援する公共交通機関の利用者数【年間】	人	78,977	100,000
近隣市町村における駐車スペースの確保	台	0	2

番号	具体的な事業	担当課
1	府道宇治木屋線犬打峠トンネル化の実現に伴うバス路線の検討 令和5年度完成の宇治木屋線犬打峠トンネルの開通を見据え、新たなバス路線の開設を協議するとともに、交通結節点である和束茶カフェ周辺のバス待合環境を整備することにより、公共交通の充実を図る。	建設事業課
2	公共交通の充実 コミュニティバス等新たな公共交通のあり方について検討する。	総務課
3	タクシー運賃費助成事業 鉄道空白地地域の移動手段として、タクシー運賃を助成する。	
4	通勤・通学バスの運行システムの検討 通勤と通学の時間帯のみ充実させたバスの運行システムを検討し、保護者の負担軽減や利便性を高める。	
5	近隣市町村における駐車場スペースの確保対策 事業所が立地する周辺で駐車場を確保し、通勤の利便性を確保する。	

基本的方向2 身近な拠点づくりと地域における生活支援

○公民館、公共施設を活用し、集いや交流の場となる身近な拠点としての整備を推進し、さらに多世代交流、多機能型施設として町の中心部に（仮称）和束町総合保健福祉施設の整備を進めます。町内の買い物等に支援が必要な方への配達サービスなど、引き続き、生活支援の充実に取り組めます。

重要業績評価指標

指標名	単位	基準値 (2019年)	目標値 (2025年)
生活支援利用人数	人	857	900

番号	具体的な事業	担当課
1	身近な拠点(多世代交流・多機能型)の(仮称)和束町総合保健福祉施設の整備 交流施設や生活利便施設等を備えた多機能型・多世代交流型の身近な拠点施設を整備する。	総合施設整備課
2	高齢者見守りサポート事業 地域包括支援センターと連携し、定期的な訪問により日常生活支援、相談、見守りを行う。	福祉課
3	高齢者介護予防等支援事業 外出支援サービスや軽度の生活援助サービスを行う。	

基本的方向3 安心・快適な暮らしを守る

○近年関心の高まりをみせる防災について、地域において住民が主体となり取組めるよう、消防団や自主防災組織の充実強化に取り組めます。また、住民の安心と健康を支えるため、検査の受診を啓発し、住民の健康意識の強化を図ります。さらなる安心のための山や川の環境保全を図り、鳥獣被害の減少、森林や河川環境の保全等に努めます。

重要業績評価指標

指標名	単位	基準値 (2019年)	目標値 (2025年)
タイムライン等を活用し避難訓練した地域	地域	0	15
胃カメラ・エコー検査実施日数	日/月	4	6
野生動物による農作物被害額	千円	11,318	8,307
避難訓練実施地域（累計）	地域	14	全ての消防団 及び 自主防災組織

番号	具体的な事業	担当課
1	避難対策強化事業 水害等避難行動タイムラインや防災マップを活用して地域で避難訓練を実施する。	総務課
2	地域医療体制充実事業(国保診療所) 近隣医療機関との連携により診療対応科目を確保する。	診療所
3	茶源郷健康ポイント事業 特定健診やがん検診等の受診に応じたポイントを付与し、ポイント数に応じて商工会が発行する商品券の他、健康グッズ等の特典と交換する。	福祉課 診療所
4	鳥獣被害総合対策事業 野生鳥獣の捕獲と侵入防止柵による農作物の防護を両立するため、資機材整備や地域と連携した追い払い等を行う。	農村振興課

基本的方向4 情報発信と活用を強化する

○住民参加型の茶源郷行政情報配信システムの整備を進め、町行政や町議会の情報公開、住民向けの様々な情報の提供、さらに遠隔で双方向にコミュニケーションが図れるように機能を利用した住民ニーズに応じたサービスの提供を推進します。

重要業績評価指標

指標名	単位	基準値 (2019年)	目標値 (2025年)
茶源郷行政情報配信システムの設置台数	台	480	1,000
ホームページアクセス件数	件	848,744	1,000,000

番号	具体的な事業	担当課
1	茶源郷行政情報配信システム(光ボックス)機能強化事業 住民生活や行政サービスの向上に向けて、双方向通信できる情報端末の整備を推進するとともに、サービス内容の充実を図る。	総務課
2	茶源郷和束ホームページ発信力強化事業 住民や外部の人から見やすく、必要な情報がすぐに入手できるように、ホームページの充実・発信力強化を図る。	